



家庭教育推進県中ブロック会議

6月5日（木）、家庭教育推進県中ブロック会議を行いました。

『ブロック会議』とは、県中域内の家庭教育に関する課題解決に向けた協議や実践活動がなされるよう支援するための会です。アドバイザーや家庭教育支援者、企業代表、スポーツクラブ代表、児童委員、各地区のPTA代表、家庭教育支援チーム、保護者代表の計18名の推進委員で構成されています。推進委員は、本会議で話し合われたことをもとに、それぞれの活動場所で推進、支援していきます。



今年は『**県中つながるプロジェクト**』を行ってまいります。

本会議では、まず「推進委員のそれぞれの持っているスキルや経験をフルに使って、一步踏み出し、できることをする。それぞれの委員が現在行っている活動に学生のボランティアも含めて試しにつながってみて、『楽しかった・嬉しかった』という体験を重ねていけば、それが広がり、アウトリーチ型で情報が欲しい人につながっていく、絶対いいほうに波及するだろう」と確認しました。

そして、我々の活動をお互いが理解し、つながることで、人、もの、ことの新たな発見をし、さらに、家庭教育支援チームやPTA、応援企業等との連携を強化・深化させながら、情報を幅広く発信していきます。

「つながったから分かる。とにかくつながる経験である。それぞれの持ち場でやっている小さなイベントや活動に、行ける人がちょっと行って、できることをお手伝いする。『つながる経験』を模索する1年にしていく。」と共有しました。

推進委員の皆様の活動内容は様々ですが、これからの取り組みの様子や情報をお届けしていきます。

「地域でつながる家庭教育応援事業」

子育てに不安や悩みを抱える家庭に支援が届くよう、企業、PTA、家庭教育支援チーム等みんなで力を合わせて家庭教育を応援していきます。



読書活動支援者育成事業県中地区研修会

本事業は、子どもの読書環境を充実させ、生涯にわたる望ましい読書習慣を形成することをねらいとして実施しています。

今年度も、地域で読書活動を推進するボランティアの方々や各学校の先生方、学校司書・図書館司書の方を対象として、6月12日（木）、約60名に参加いただき開催しました。

○実践発表 「読み聞かせ会『あのね』」（古殿町）

当団体は「令和七年度子供の読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰」を受賞されました。これまでの実践として「古殿まち物語紙芝居化プロジェクト」の紹介と自作紙芝居の実演をしていただきました。代表の阿久津華子氏からは、「古殿町出身なのに古殿町の昔話を知らない人が多い。伝える人がいないなら自分たちが伝える存在になろう。」と、読み聞かせ会「あのね」の立ち上げについても話していただきました。実演で紙芝居を読まれた「あのね」のメンバー全員からは、伝えることの「熱い思い」と「使命感」が感じられました。



○講 話 童話作家 すとうあさえ 氏

『はしれ ディーゼルきかんしゃ デーデ』の作者であるすとう氏から、この絵本の制作経緯、震災伝承や絵本の「読み語り」に対するご自身の思いについてお話をいただきました。「デーデは、絵本の中で今でも走り続けている。そして、これからも良い出会いを運んでくれる。」といったお話がありましたが、参加者同士にとっても、大変すばらしい出会いが生まれた時間となりました。



○講義・演習 絵本専門士 田中雄人 氏

田中氏からは、絵本の魅力と読み聞かせをする時のコツなどについて、実演や演習を通して楽しく紹介していただきました。

講義では「絵本が伝えてくれる4つの繋ぎ」として、

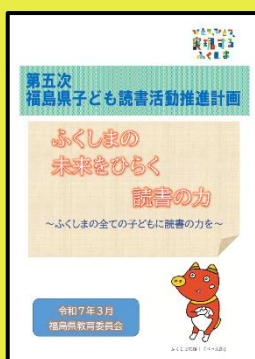
「1. 人と人をつなげる」「2. 親子をつなげる」

「3. 場と時間をつなげる」「4. 過去と未来をつなげる」



について、絵本専門士ならではの知識をご教授いただきました。この講義・演習を通して、参加者それぞれの絵本に対するこれまでの見方と新たな気づきにつながったことは、まさに絵本が伝えてくれる「4つの繋ぎ」でありました。

今後も、読書活動を支援する人材の育成と資質向上に努めてまいります。



第5次福島県子ども読書活動推進計画について

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を選び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かすことのできないもの」であるとともに、乳幼児の読み聞かせから始まる子どもの読書活動は、知的、情緒的、精神発達のにも大きな役割を果たし、子どもたちが心身ともに健やかに成長していくために重要なものです。

←「子ども読書活動推進」は、この計画に沿って取り組んでまいります。詳細については、社会教育課 HP または、右のQRコードからも閲覧できます。

